

令和4年度 海洋プラスチックごみ等流出抑制対策事業の結果概要について

[環境政策課]

1 事業の目的

環境省の調査によると、海洋ごみの8割は陸域で発生したごみが河川等を通じて海に流出したものであるとの報告があることから、市内3つの河川等にオイルフェンス及び網場^{あば}を設置して、流れるごみを回収してその実態を把握し、陸域から海洋への効果的なごみの流出防止に資することを目的とする。

2 取組概要

(1) オイルフェンス・網場の設置

がめ川、広田用水、千俵用水にオイルフェンス、もしくは網場を2～3カ月設置した。設置は24時間。ごみの回収については毎週月曜日の週1回を基本とし、がめ川のみ、荒天等による増水が予想された時にも事前のごみの回収を行った。

箇所	設置したもの	設置期間	管理主体
がめ川	オイルフェンス	R4.8.1～R4.10.31	市道路河川管理課
広田用水	網場	R4.8.1～R4.9.30	広田用水土地改良区
千俵用水	網場		常西用水土地改良区



【がめ川】



【広田用水】



【千俵用水】

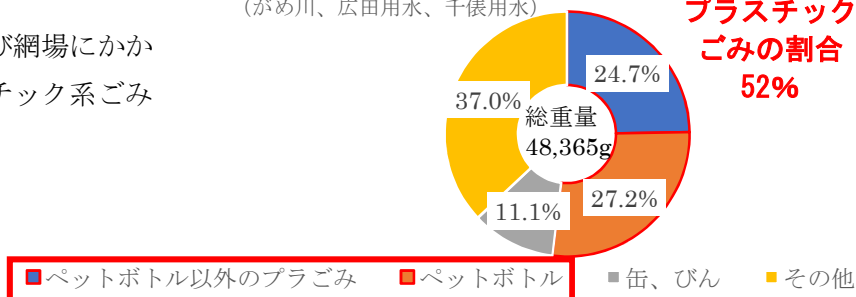
<プラスチックごみ回収におけるオイルフェンスと網場の違い>

オイルフェンス	網場
・ペットボトルなど水に浮く軽いものを回収するのに適している。 ・草木の引っ掛かりが少ないため、対岸のロープを外すことなく大きなタモでごみを回収することが出来る。 ・大雨など水位が上がり流れが速くなった際、ごみが流出しやすいのが難点。	・網目があるので、水流を妨げることなく、ある程度沈んでいるプラスチックごみも回収することが出来る。 ・自然物が多い河川では、網目に草木が絡まるため、ごみ回収の際、対岸のロープを一度外し、網場を引き揚げ、草木を取り除く必要がある。そのため回収作業にかかる人員が多くなるのが難点。

<回収結果>

令和4年度のオイルフェンスおよび網場にかかるごみの回収については、プラスチック系ごみが半数近くを占める結果となった。

ごみ（木材・落ち葉除く）の回収重量の割合
（がめ川、広田用水、千俵用水）



今回の「がめ川」での調査結果では、河川に流れでるごみは、「①意図的に道端や川に捨てたごみ」と「②管理できていない生活用品やごみ」の2種類あることが判明した。



オイルフェンスにかかるごみ

①意図的に道端や川に捨てたごみ

- ・中身が入った状態のペットボトルと弁当容器が、縛られた状態のビニール袋から、複数回、回収された。



一度の回収で集まったペットボトル



縛られた状態で回収されたビニール袋



回収された弁当容器

- ・大量のタバコの吸い殻や紙コップが袋詰めにした状態で回収されたこともあった。



大量のたばこの吸い殻



1度に回収された大量の紙コップ

屋外で食事や喫煙を行ったあとに袋に入れて捨てた（置いた）ものが
河川に流れ出した可能性がある。

②管理できていない生活用品やごみ

- ・屋外で保管もしくは使用後にそのまま置いてあった園芸用品や様々なボールなど、生活ごみも多く確認された。ラベルが外してあるペットボトルも回収された。



ジョーロ



様々な種類のボール



ラベルのついていないペットボトル

庭や公園、ごみステーションに置いてあったものが、
雨風によって河川に流れ出てしまった可能性がある。



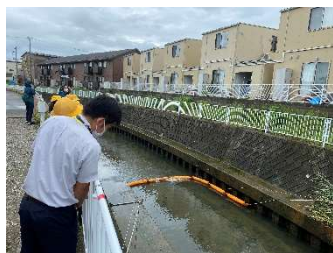
川に捨てるつもりがなくても海洋ごみになってしまうことがある。

（２）海洋ごみに関する小学生への特別授業

海洋ごみ問題に、より興味・関心をもってもらうために、市では小学４～６年生を対象に「海洋ごみに関する小学生への特別授業」を行っており、令和４年度は４校（広田小学校、奥田北小学校、針原小学校、水橋西部小学校）で実施した。

体験する

「がめ川」にてオイルフェンスを見学し身近なところを流れる川にごみが多くある現状を知った。その後、岩瀬浜でごみ拾いを行い、どのようなごみが落ちているかを学んだ。



オイルフェンスの見学



海岸でのごみ拾い



拾ったごみについての発表

学ぶ

エコタウン交流推進センターでまとめの講義を聞き、海洋ごみ問題への理解を深めた。
特別展示室に展示してある海洋ごみパネルの見学も行った。



海洋ごみの講義



海洋ごみのパネル展示の見学

伝える

授業に参加した児童からは、「家族にもゴミを捨てるのはダメだと伝え、捨てないように心がけたい。」といった声が聞かれた。一部の学校では、特別授業の後も自分たちで海洋ゴミに関する内容を調べ続け、学習発表会や他の学年に対し研究の成果を発表した。



ミニオイルフェンスをつかった実験



通学路のごみ拾い



学習発表会での発表